



東深沢

令和7年9月30日
みしまの森学舎
世田谷区立東深沢小学校
校長 奥長 英樹



花を咲かせる心もち続けること



副校長 高木 案理

今年は夏休み明けにも、例年以上の酷暑や豪雨災害などが続きました。子どもたちは暑さのため、休み時間校庭で遊ぶことができなかったり、保護者の方々には登下校の際などに安全面でご配慮いただいたりしました。ありがとうございました。そんな9月も終わり、明日から10月に入ります。少しずつ心地よい風が吹き、秋の訪れを感じるようになりました。学校では「実りの秋」を迎えます。さつまいも掘りや移動教室、イングリッシュウィークや学習成果発表会に向けての準備など様々な経験を通し、子どもたちの努力や学びの成果が実を結ぶ時期となりました。10月20日から22日には学校公開もあります。引き続き、本校の教育活動に対するご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

さて私事ではありますが、体調を崩し6月よりしばらくお休みをいただいております。ご迷惑やご心配をお掛けいたしましたこと、本紙面をお借りしてお詫び申し上げます。またその間、保護者や地域の方々には様々なご配慮、ご協力をいただいたこと、お礼申し上げます。

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症に私も2022の夏に罹患し、その後3年続けて毎年夏に感染することが続いておりました。インフルエンザには今まで一度も感染したことがなく、自分は大丈夫だと考えていたのですが、コロナに関しては感染する重に後遺症が強く出るようになっていました。また勤務の環境が変わったことも影響し、体調を崩してしまいました。

休養すればすぐに良くなると考えていたのですが、治療の効果がなかなか出ず、落ち込む日が続いていたことも事実です。そんな中、家にあった書籍を読み返す機会がありました。その中に渡辺和子さんの著書「置かれた場所で 咲きなさい」(幻冬舎)という本があります。折に触れて読んでいたものの、今回は「どんなところに置かれても 花を咲かせる心を もち続けよう。」という一説が心に響きました。「境遇を選ぶことはできないが、生き方を選ぶことはできる。『現在』というかけがえのない時間を精一杯生きよう。」(本書からの抜粋)というものです。休職期間に入り、(どうしてコロナに3回もかかってしまったのだろう。どうして、このタイミングで勤務環境が変わったのだろう。元に戻らなかったらどうしよう。)など思い悩んでいたのですが、考え方を考えるきっかけとなりました。

近年、小中高生が自ら命を絶つことが増え2024年の統計では429人と過去最多となっています。未来あるかけがえのない命が絶たれてしまうこと、とても悲しく思います。自身の気持ちを切り替えたり、周囲の大人がうまく関わったりすることで生きる道を選択してほしかったと思います。しかし子どもたちを取り巻く環境は年々厳しくまた複雑になっています。一人で悩みを抱え込んでしまい、それに対して周囲の大人もどう対応すればよいのか難しくなっています。命を絶つとまではいかないまでも、子どもたちは(交友関係が〇〇だったらよかったのに。もっと自分が〇〇だったらよかったのに。家の環境が〇〇だったらよかったのに。)と悩んだり、また保護者の方々の中には(我が子がもっと〇〇だったら……。周りの環境がもっと〇〇だったら……。)などと、努力だけではなかなか変えられないことに考えを巡らせて悩んでしまったりすることがあるのではないのでしょうか。

もちろん努力して、変えられることであれば頑張ってみることも必要です。しかし時として、自身ではどうにもできないことがあるのも事実です。その様な時は、現実を受け入れる勇気を持ち、今を楽しむためにはどのようにすればよいか、ということに考えをシフトすることが大切です。私自身、これからも花を咲かせる心もち続けていきたいと考えています。